

ビジネス実務法務検定試験2級 - 株式会社の組織と運営

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q001 BL2-010

株式会社の組織と運営 / 新株予約権 / 形式：○ ×

次の記述は正しいか。
新株予約権は、会社の不動産を借りる権利である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：ストックオプションなどで利用される。

要点：新株予約権

Q002 BL2-011

株式会社の組織と運営 / 組織再編 / 形式：○ ×

次の記述は正しいか。
合併・会社分割・株式交換などは組織再編行為に含まれる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：株主・債権者・従業員への影響を検討する。

要点：組織再編

Q003 BL2-026

株式会社の組織と運営 / 剰余金配当 / 形式：○ ×

次の記述は正しいか。
株式会社は、利益がなくても無制限に配当できる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：債権者保護のため財源規制がある。

要点：剰余金配当

Q004 BL2-027

株式会社の組織と運営 / 社外取締役 / 形式：○ ×

次の記述は正しいか。
社外取締役は、社外性を有する取締役として経営監督に関与する。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：ガバナンス強化の観点で重要である。

要点：社外取締役

Q005 BL2-041

株式会社の組織と運営 / 公開会社 / 形式：○ ×

次の記述は正しいか。
公開会社とは、発行する全部または一部の株式に譲渡制限がない会社である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：会社法上の公開会社は上場の有無とは異なる。

要点：公開会社

ビジネス実務法務検定試験2級 - 株式会社の組織と運営

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q006 BL2-042

株式会社の組織と運営 / 善管注意義務 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
取締役は、会社に対して何ら注意義務を負わない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：任務懈怠責任の前提となる。

要点：善管注意義務

Q007 BL2-043

株式会社の組織と運営 / 会計監査人 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
会計監査人は、会社の計算書類等を監査する機関である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：大会社などで設置が問題となる。

要点：会計監査人

Q008 BL2-057

株式会社の組織と運営 / 非公開会社 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
非公開会社は、発行する全株式に譲渡制限がある会社である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：機関設計の自由度が比較的高い。

要点：非公開会社

Q009 BL2-058

株式会社の組織と運営 / 忠実義務 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
取締役は、会社利益に反して自己利益を優先する義務を負う。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：忠実義務は取締役の基本義務である。

要点：忠実義務

Q010 BL2-073

株式会社の組織と運営 / 株式譲渡制限 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
株式譲渡制限会社では、株式譲渡に会社の承認を要する。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：中小企業の株主構成維持に利用される。

要点：株式譲渡制限

ビジネス実務法務検定試験2級 - 株式会社の組織と運営

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q011 BL2-074

株式会社の組織と運営 / 競業取引 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
取締役の競業取引は、会社の承認なく常に自由である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：会社の機会奪取や利益相反を防ぐ趣旨がある。

要点：競業取引

Q012 BL2-089

株式会社の組織と運営 / 株主名簿 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
株主名簿は、株主と株式に関する事項を管理する帳簿である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：名義書換えや権利行使に関係する。

要点：株主名簿

Q013 BL2-090

株式会社の組織と運営 / 利益相反取引 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
利益相反取引は、会社法上いかなる規制も受けない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：直接取引・間接取引を区別する。

要点：利益相反取引

Q014 BL2-105

株式会社の組織と運営 / 募集株式の発行 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
募集株式の発行では、既存株主の持株比率希釈化が問題となる。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい

超簡単な解説：有利発行や公開会社・非公開会社の手続差に注意する。

要点：募集株式の発行

Q015 BL2-106

株式会社の組織と運営 / 株主代表訴訟 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
株主代表訴訟は、役員が株主を訴える制度である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り

超簡単な解説：会社の損害回復を目的とする。

要点：株主代表訴訟

ビジネス実務法務検定試験2級 - 株式会社の組織と運営

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q016 BL2-121

株式会社の組織と運営 / 新株予約権 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
新株予約権は、会社に対し株式交付を請求できる権利である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：ストックオプションなどで利用される。
要点：新株予約権

Q017 BL2-122

株式会社の組織と運営 / 組織再編 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
組織再編は、労働契約や債権者保護と一切関係しない。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：株主・債権者・従業員への影響を検討する。
要点：組織再編

Q018 BL2-137

株式会社の組織と運営 / 剰余金配当 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
剰余金配当には、分配可能額規制がある。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：債権者保護のため財源規制がある。
要点：剰余金配当

Q019 BL2-138

株式会社の組織と運営 / 社外取締役 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
社外取締役は、会社の従業員だけが就任できる役職である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：ガバナンス強化の観点で重要である。
要点：社外取締役

Q020 BL2-152

株式会社の組織と運営 / 公開会社 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
公開会社とは、上場会社だけを意味する。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：会社法上の公開会社は上場の有無とは異なる。
要点：公開会社

ビジネス実務法務検定試験2級 - 株式会社の組織と運営

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q021 BL2-153

株式会社の組織と運営 / 善管注意義務 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
取締役は、会社に対して善管注意義務を負う。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：任務懈怠責任の前提となる。
要点：善管注意義務

Q022 BL2-154

株式会社の組織と運営 / 会計監査人 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
会計監査人は、会社の営業販売だけを担当する従業員である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：大会社などで設置が問題となる。
要点：会計監査人

Q023 BL2-168

株式会社の組織と運営 / 非公開会社 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
非公開会社は、会社情報を一切作成しなくてよい会社である。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：誤り
超簡単な解説：機関設計の自由度が比較的高い。
要点：非公開会社

Q024 BL2-169

株式会社の組織と運営 / 忠実義務 / 形式：○×

次の記述は正しいか。
取締役は、法令・定款・株主総会決議を遵守し忠実に職務を行う義務を負う。

1. 正しい
2. 誤り

答え・解説

正答：正しい
超簡単な解説：忠実義務は取締役の基本義務である。
要点：忠実義務

Q025 BL2-179

株式会社の組織と運営 / 非公開会社 / 形式：2択

次のうち、「非公開会社」について正しい説明はどちらか。

1. 非公開会社は、発行する全株式に譲渡制限がある会社である。
2. 債権譲渡では、対抗要件は一切問題にならない。

答え・解説

正答：非公開会社は、発行する全株式に譲渡制限がある会社である。
超簡単な解説：機関設計の自由度が比較的高い。
要点：非公開会社

ビジネス実務法務検定試験2級 - 株式会社の組織と運営

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q026 BL2-180

株式会社の組織と運営 / 忠実義務 / 形式：2択

次のうち、「忠実義務」について正しい説明はどちらか。

1. CISGは、国内の株式会社設立だけを定める会社法である。
2. 取締役は、法令・定款・株主総会決議を遵守し忠実に職務を行う義務を負う。

答え・解説

正答：取締役は、法令・定款・株主総会決議を遵守し忠実に職務を行う義務を負う。

超簡単な解説：忠実義務は取締役の基本義務である。

要点：忠実義務

Q027 BL2-195

株式会社の組織と運営 / 株式譲渡制限 / 形式：2択

次のうち、「株式譲渡制限」について正しい説明はどちらか。

1. 株式譲渡制限会社では、株式譲渡に会社の承認を要する。
2. 新株予約権は、会社の不動産を借りる権利である。

答え・解説

正答：株式譲渡制限会社では、株式譲渡に会社の承認を要する。

超簡単な解説：中小企業の株主構成維持に利用される。

要点：株式譲渡制限

Q028 BL2-196

株式会社の組織と運営 / 競業取引 / 形式：2択

次のうち、「競業取引」について正しい説明はどちらか。

1. 電子署名は、紙文書の押印を常に法律上禁止する制度である。
2. 取締役が会社と競業する取引を行う場合、会社法上の承認が問題となる。

答え・解説

正答：取締役が会社と競業する取引を行う場合、会社法上の承認が問題となる。

超簡単な解説：会社の機会奪取や利益相反を防ぐ趣旨がある。

要点：競業取引

Q029 BL2-211

株式会社の組織と運営 / 株主名簿 / 形式：2択

次のうち、「株主名簿」について正しい説明はどちらか。

1. 株主名簿は、株主と株式に関する事項を管理する帳簿である。
2. 個人データ漏えい時には、どのような場合も外部報告は一切不要である。

答え・解説

正答：株主名簿は、株主と株式に関する事項を管理する帳簿である。

超簡単な解説：名義書換えや権利行使に関係する。

要点：株主名簿

Q030 BL2-212

株式会社の組織と運営 / 利益相反取引 / 形式：2択

次のうち、「利益相反取引」について正しい説明はどちらか。

1. 職務発明では、従業員の発明は常に本人の私物として会社は一切関与できない。
2. 取締役と会社の利益が衝突する取引では、承認手続が問題となる。

答え・解説

正答：取締役と会社の利益が衝突する取引では、承認手続が問題となる。

超簡単な解説：直接取引・間接取引を区別する。

要点：利益相反取引

ビジネス実務法務検定試験2級 - 株式会社の組織と運営

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q031 BL2-227

株式会社の組織と運営 / 募集株式の発行 / 形式：2択

次のうち、「募集株式の発行」について正しい説明はどちらか。

1. 募集株式の発行では、既存株主の持株比率希釈化が問題となる。
2. 36協定は、年次有給休暇の取得を全面禁止する協定である。

答え・解説

正答：募集株式の発行では、既存株主の持株比率希釈化が問題となる。
超簡単な解説：有利発行や公開会社・非公開会社の手続差に注意する。
要点：募集株式の発行

Q032 BL2-228

株式会社の組織と運営 / 株主代表訴訟 / 形式：2択

次のうち、「株主代表訴訟」について正しい説明はどちらか。

1. 国際私法は、刑務所の管理だけを定める法律である。
2. 株主代表訴訟は、株主が会社に代わり役員責任を追及する訴訟である。

答え・解説

正答：株主代表訴訟は、株主が会社に代わり役員責任を追及する訴訟である。
超簡単な解説：会社の損害回復を目的とする。
要点：株主代表訴訟

Q033 BL2-243

株式会社の組織と運営 / 新株予約権 / 形式：2択

次のうち、「新株予約権」について正しい説明はどちらか。

1. 新株予約権は、会社に対し株式交付を請求できる権利である。
2. 二次的著作物は、原著作物の権利者と常に無関係に利用できる。

答え・解説

正答：新株予約権は、会社に対し株式交付を請求できる権利である。
超簡単な解説：ストックオプションなどで利用される。
要点：新株予約権

Q034 BL2-244

株式会社の組織と運営 / 組織再編 / 形式：2択

次のうち、「組織再編」について正しい説明はどちらか。

1. 仮名加工情報は、氏名をそのまま残した公開名簿だけを意味する。
2. 合併・会社分割・株式交換などは組織再編行為に含まれる。

答え・解説

正答：合併・会社分割・株式交換などは組織再編行為に含まれる。
超簡単な解説：株主・債権者・従業員への影響を検討する。
要点：組織再編

Q035 BL2-259

株式会社の組織と運営 / 剰余金配当 / 形式：2択

次のうち、「剰余金配当」について正しい説明はどちらか。

1. 剰余金配当には、分配可能額規制がある。
2. 会計監査人は、会社の営業販売だけを担当する従業員である。

答え・解説

正答：剰余金配当には、分配可能額規制がある。
超簡単な解説：債権者保護のため財源規制がある。
要点：剰余金配当

ビジネス実務法務検定試験2級 - 株式会社の組織と運営

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q036 BL2-260

株式会社の組織と運営 / 社外取締役 / 形式：2択

次のうち、「社外取締役」について正しい説明はどちらか。

1. 下請代金の支払遅延は、下請法上常に許される。
2. 社外取締役は、社外性を有する取締役として経営監督に関与する。

答え・解説

正答：社外取締役は、社外性を有する取締役として経営監督に関与する。
超簡単な解説：ガバナンス強化の観点で重要である。

要点：社外取締役

Q037 BL2-274

株式会社の組織と運営 / 公開会社 / 形式：2択

次のうち、「公開会社」について正しい説明はどちらか。

1. 目的条項は、契約解釈において常に完全に無意味である。
2. 公開会社とは、発行する全部または一部の株式に譲渡制限がない会社である。

答え・解説

正答：公開会社とは、発行する全部または一部の株式に譲渡制限がない会社である。

超簡単な解説：会社法上の公開会社は上場の有無とは異なる。

要点：公開会社

Q038 BL2-275

株式会社の組織と運営 / 善管注意義務 / 形式：2択

次のうち、「善管注意義務」について正しい説明はどちらか。

1. 取締役は、会社に対して善管注意義務を負う。
2. 公開会社とは、上場会社だけを意味する。

答え・解説

正答：取締役は、会社に対して善管注意義務を負う。

超簡単な解説：任務懈怠責任の前提となる。

要点：善管注意義務

Q039 BL2-276

株式会社の組織と運営 / 会計監査人 / 形式：2択

次のうち、「会計監査人」について正しい説明はどちらか。

1. 輸出管理では、軍民両用技術は一切問題にならない。
2. 会計監査人は、会社の計算書類等を監査する機関である。

答え・解説

正答：会計監査人は、会社の計算書類等を監査する機関である。

超簡単な解説：大会社などで設置が問題となる。

要点：会計監査人

Q040 BL2-290

株式会社の組織と運営 / 非公開会社 / 形式：2択

次のうち、「非公開会社」について正しい説明はどちらか。

1. 共同発明では、出願人を決める必要が一切ない。
2. 非公開会社は、発行する全株式に譲渡制限がある会社である。

答え・解説

正答：非公開会社は、発行する全株式に譲渡制限がある会社である。

超簡単な解説：機関設計の自由度が比較的高い。

要点：非公開会社

ビジネス実務法務検定試験2級 - 株式会社の組織と運営

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q041 BL2-291

株式会社の組織と運営 / 忠実義務 / 形式：2択

次のうち、「忠実義務」について正しい説明はどちらか。

- 取締役は、法令・定款・株主総会決議を遵守し忠実に職務を行う義務を負う。
- 民事再生は、法人に一切利用できない手続である。

答え・解説

正答：取締役は、法令・定款・株主総会決議を遵守し忠実に職務を行う義務を負う。

超簡単な解説：忠実義務は取締役の基本義務である。

要点：忠実義務

Q042 BL2-306

株式会社の組織と運営 / 株式譲渡制限 / 形式：2択

次のうち、「株式譲渡制限」について正しい説明はどちらか。

- 国際送金は、相手国や制裁対象に関係なく常に自由である。
- 株式譲渡制限会社では、株式譲渡に会社の承認を要する。

答え・解説

正答：株式譲渡制限会社では、株式譲渡に会社の承認を要する。

超簡単な解説：中小企業の株主構成維持に利用される。

要点：株式譲渡制限

Q043 BL2-307

株式会社の組織と運営 / 競業取引 / 形式：2択

次のうち、「競業取引」について正しい説明はどちらか。

- 取締役が会社と競業する取引を行う場合、会社法上の承認が問題となる。
- 解除条項は、契約書に定めることが法律上禁止されている。

答え・解説

正答：取締役が会社と競業する取引を行う場合、会社法上の承認が問題となる。

超簡単な解説：会社の機会奪取や利益相反を防ぐ趣旨がある。

要点：競業取引

Q044 BL2-322

株式会社の組織と運営 / 株主名簿 / 形式：2択

次のうち、「株主名簿」について正しい説明はどちらか。

- 内部通報制度は、企業のコンプライアンスと無関係である。
- 株主名簿は、株主と株式に関する事項を管理する帳簿である。

答え・解説

正答：株主名簿は、株主と株式に関する事項を管理する帳簿である。

超簡単な解説：名義書換えや権利行使に関係する。

要点：株主名簿

Q045 BL2-323

株式会社の組織と運営 / 利益相反取引 / 形式：2択

次のうち、「利益相反取引」について正しい説明はどちらか。

- 取締役と会社の利益が衝突する取引では、承認手続が問題となる。
- 会計監査人は、会社の営業販売だけを担当する従業員である。

答え・解説

正答：取締役と会社の利益が衝突する取引では、承認手続が問題となる。

超簡単な解説：直接取引・間接取引を区別する。

要点：利益相反取引

ビジネス実務法務検定試験2級 - 株式会社の組織と運営

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q046 BL2-344

株式会社の組織と運営 / 株主名簿 / 形式：4択

次のうち、「株主名簿」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 不当労働行為は、使用者保護だけを目的とする制度である。
2. 株主名簿は、株主と株式に関する事項を管理する帳簿である。
3. CISGは、国内の株式会社設立だけを定める会社法である。
4. 育児・介護休業は、企業が任意で完全に無視できる制度である。

答え・解説

正答：株主名簿は、株主と株式に関する事項を管理する帳簿である。
超簡単な解説：名義書換えや権利行使に関係する。

要点：株主名簿

Q047 BL2-345

株式会社の組織と運営 / 利益相反取引 / 形式：4択

次のうち、「利益相反取引」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 電子契約は、紙の契約書がないため法律上必ず無効となる。
2. ノウハウ契約では、秘密保持条項を置くことが法律上禁止されている。
3. 取締役と会社の利益が衝突する取引では、承認手続が問題となる。
4. 債権譲渡では、対抗要件は一切問題にならない。

答え・解説

正答：取締役と会社の利益が衝突する取引では、承認手続が問題となる。
超簡単な解説：直接取引・間接取引を区別する。

要点：利益相反取引

Q048 BL2-360

株式会社の組織と運営 / 募集株式の発行 / 形式：4択

次のうち、「募集株式の発行」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 譲渡担保は、日本の実務で担保として利用されない。
2. 株主名簿は、株式会社では作成してはならない。
3. 所有権留保は、売買契約で一切利用できない。
4. 募集株式の発行では、既存株主の持株比率希釈化が問題となる。

答え・解説

正答：募集株式の発行では、既存株主の持株比率希釈化が問題となる。
超簡単な解説：有利発行や公開会社・非公開会社の手続差に注意する。

要点：募集株式の発行

Q049 BL2-361

株式会社の組織と運営 / 株主代表訴訟 / 形式：4択

次のうち、「株主代表訴訟」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 与信管理は、売掛金回収リスクと一切関係がない。
2. リーガルチェックは、契約締結前には絶対に行ってはならない。
3. 補償条項は、損失負担を一切定めてはならない条項である。
4. 株主代表訴訟は、株主が会社に代わり役員責任を追及する訴訟である。

答え・解説

正答：株主代表訴訟は、株主が会社に代わり役員責任を追及する訴訟である。
超簡単な解説：会社の損害回復を目的とする。

要点：株主代表訴訟

Q050 BL2-376

株式会社の組織と運営 / 新株予約権 / 形式：4択

次のうち、「新株予約権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 取締役の競業取引は、会社の承認なく常に自由である。
2. 新株予約権は、会社に対し株式交付を請求できる権利である。
3. 電子署名は、紙文書の押印を常に法律上禁止する制度である。
4. 基本契約を締結すると、個別契約の条件は一切定められない。

答え・解説

正答：新株予約権は、会社に対し株式交付を請求できる権利である。
超簡単な解説：ストックオプションなどで利用される。

要点：新株予約権

ビジネス実務法務検定試験2級 - 株式会社の組織と運営

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q051 BL2-377

株式会社の組織と運営 / 組織再編 / 形式：4択

次のうち、「組織再編」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 共同発明では、出願人を決める必要が一切ない。
2. 取締役の競業取引は、会社の承認なく常に自由である。
3. 人物写真は、本人の許諾なく広告に自由に使える。
4. 合併・会社分割・株式交換などは組織再編行為に含まれる。

答え・解説

正答：合併・会社分割・株式交換などは組織再編行為に含まれる。
超簡単な解説：株主・債権者・従業員への影響を検討する。

要点：組織再編

Q052 BL2-392

株式会社の組織と運営 / 剰余金配当 / 形式：4択

次のうち、「剰余金配当」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 外国判決は、日本で常に自動的にかつ無条件に強制執行できる。
2. CISGは、国内の株式会社設立だけを定める会社法である。
3. 仮名加工情報は、氏名をそのまま残した公開名簿だけを意味する。
4. 剰余金配当には、分配可能額規制がある。

答え・解説

正答：剰余金配当には、分配可能額規制がある。
超簡単な解説：債権者保護のため財源規制がある。

要点：剰余金配当

Q053 BL2-393

株式会社の組織と運営 / 社外取締役 / 形式：4択

次のうち、「社外取締役」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 職務発明では、従業員の発明は常に本人の私物として会社は一切関与できない。
2. 株主名簿は、株式会社では作成してはならない。
3. 完全合意条項は、契約締結後に必ず全条項を無効にする条項である。
4. 社外取締役は、社外性を有する取締役として経営監督に関与する。

答え・解説

正答：社外取締役は、社外性を有する取締役として経営監督に関与する。
超簡単な解説：ガバナンス強化の観点で重要である。

要点：社外取締役

Q054 BL2-407

株式会社の組織と運営 / 公開会社 / 形式：4択

次のうち、「公開会社」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 公開会社とは、発行する全部または一部の株式に譲渡制限がない会社である。
2. 利益相反取引は、会社法上いかなる規制も受けない。
3. 株式会社は、利益がなくても無制限に配当できる。
4. 匿名加工情報は、容易に本人へ復元できる情報をいう。

答え・解説

正答：公開会社とは、発行する全部または一部の株式に譲渡制限がない会社である。

超簡単な解説：会社法上の公開会社は上場の有無とは異なる。

要点：公開会社

Q055 BL2-408

株式会社の組織と運営 / 善管注意義務 / 形式：4択

次のうち、「善管注意義務」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 取締役は、会社に対して善管注意義務を負う。
2. 利益相反取引は、会社法上いかなる規制も受けない。
3. 通信販売では、販売条件を一切表示しなくてもよい。
4. 社会保険は、企業の労務管理と一切関係しない。

答え・解説

正答：取締役は、会社に対して善管注意義務を負う。

超簡単な解説：任務懈怠責任の前提となる。

要点：善管注意義務

ビジネス実務法務検定試験2級 - 株式会社の組織と運営

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q056 BL2-409

株式会社の組織と運営 / 会計監査人 / 形式：4択

次のうち、「会計監査人」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 会計監査人は、会社の計算書類等を監査する機関である。
2. ニューヨーク条約は、商標登録だけを定める国内法である。
3. 表明保証は、売買契約やM&Aでは絶対に使われない。
4. 保全命令は、判決確定後にだけ必ず出される命令である。

答え・解説

正答：会計監査人は、会社の計算書類等を監査する機関である。

超簡単な解説：大会社などで設置が問題となる。

要点：会計監査人

Q057 BL2-423

株式会社の組織と運営 / 非公開会社 / 形式：4択

次のうち、「非公開会社」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. リーガルチェックは、契約締結前には絶対に行ってはならない。
2. 非公開会社は、発行する全株式に譲渡制限がある会社である。
3. 譲渡担保は、日本の実務で担保として利用されない。
4. 債権者代位権は、債務者の権利を消滅させるだけの制度である。

答え・解説

正答：非公開会社は、発行する全株式に譲渡制限がある会社である。

超簡単な解説：機関設計の自由度が比較的高い。

要点：非公開会社

Q058 BL2-424

株式会社の組織と運営 / 忠実義務 / 形式：4択

次のうち、「忠実義務」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 弁護士照会は、誰でも弁護士名で自由に乱用できる制度である。
2. 取締役は、法令・定款・株主総会決議を遵守し忠実に職務を行う義務を負う。
3. 社外取締役は、会社の従業員だけが就任できる役職である。
4. 仮名加工情報は、氏名をそのまま残した公開名簿だけを意味する。

答え・解説

正答：取締役は、法令・定款・株主総会決議を遵守し忠実に職務を行う義務を負う。

超簡単な解説：忠実義務は取締役の基本義務である。

要点：忠実義務

Q059 BL2-439

株式会社の組織と運営 / 株式譲渡制限 / 形式：4択

次のうち、「株式譲渡制限」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 社外取締役は、会社の従業員だけが就任できる役職である。
2. 人物写真は、本人の許諾なく広告に自由に使える。
3. 株式譲渡制限会社では、株式譲渡に会社の承認を要する。
4. ニューヨーク条約は、商標登録だけを定める国内法である。

答え・解説

正答：株式譲渡制限会社では、株式譲渡に会社の承認を要する。

超簡単な解説：中小企業の株主構成維持に利用される。

要点：株式譲渡制限

Q060 BL2-440

株式会社の組織と運営 / 競業取引 / 形式：4択

次のうち、「競業取引」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 優良誤認表示は、消費者保護に役立つため推奨される。
2. 時間外労働をさせても、割増賃金は一切不要である。
3. 取締役が会社と競業する取引を行う場合、会社法上の承認が問題となる。
4. 不可抗力条項は、当事者の故意による不履行だけを免責する条項である。

答え・解説

正答：取締役が会社と競業する取引を行う場合、会社法上の承認が問題となる。

超簡単な解説：会社の機会奪取や利益相反を防ぐ趣旨がある。

要点：競業取引

ビジネス実務法務検定試験2級 - 株式会社の組織と運営

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q061 BL2-455

株式会社の組織と運営 / 株主名簿 / 形式：4択

次のうち、「株主名簿」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 検収を行うと、契約不適合責任は常に完全に消滅する。
2. 期限の利益喪失条項は、債権管理とは無関係である。
3. 株主名簿は、株主と株式に関する事項を管理する帳簿である。
4. 外国判決は、日本で常に自動的かつ無条件に強制執行できる。

答え・解説

正答：株主名簿は、株主と株式に関する事項を管理する帳簿である。
超簡単な解説：名義書換えや権利行使に関係する。

要点：株主名簿

Q062 BL2-456

株式会社の組織と運営 / 利益相反取引 / 形式：4択

次のうち、「利益相反取引」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 社外取締役は、会社の従業員だけが就任できる役職である。
2. 債権譲渡では、対抗要件は一切問題にならない。
3. 取締役と会社の利益が衝突する取引では、承認手続が問題となる。
4. ノウハウ契約では、秘密保持条項を置くことが法律上禁止されている。

答え・解説

正答：取締役と会社の利益が衝突する取引では、承認手続が問題となる。
超簡単な解説：直接取引・間接取引を区別する。

要点：利益相反取引

Q063 BL2-471

株式会社の組織と運営 / 募集株式の発行 / 形式：4択

次のうち、「募集株式の発行」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 国際私法は、刑務所の管理だけを定める法律である。
2. 売掛金は、発生後に管理しなくても法的リスクはない。
3. 外国判決は、日本で常に自動的かつ無条件に強制執行できる。
4. 募集株式の発行では、既存株主の持株比率希釈化が問題となる。

答え・解説

正答：募集株式の発行では、既存株主の持株比率希釈化が問題となる。
超簡単な解説：有利発行や公開会社・非公開会社の手続差に注意する。

要点：募集株式の発行

Q064 BL2-472

株式会社の組織と運営 / 株主代表訴訟 / 形式：4択

次のうち、「株主代表訴訟」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 株主代表訴訟は、株主が会社に代わり役員責任を追及する訴訟である。
2. リーガルチェックは、契約締結前には絶対に行ってはならない。
3. 通信販売では、販売条件を一切表示しなくてもよい。
4. オープンソースは、どのような条件でも完全に自由に利用できる。

答え・解説

正答：株主代表訴訟は、株主が会社に代わり役員責任を追及する訴訟である。
超簡単な解説：会社の損害回復を目的とする。

要点：株主代表訴訟

Q065 BL2-487

株式会社の組織と運営 / 新株予約権 / 形式：4択

次のうち、「新株予約権」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 新株予約権は、会社に対し株式交付を請求できる権利である。
2. オープンソースは、どのような条件でも完全に自由に利用できる。
3. 電子契約は、紙の契約書がないため法律上必ず無効となる。
4. 国際仲裁は、当事者の合意がなくても常に強制される刑事手続である。

答え・解説

正答：新株予約権は、会社に対し株式交付を請求できる権利である。
超簡単な解説：ストックオプションなどで利用される。

要点：新株予約権

ビジネス実務法務検定試験2級 - 株式会社の組織と運営

問題PDF - 左：問題 / 右：答え・超簡単な解説

Q066 BL2-488

株式会社の組織と運営 / 組織再編 / 形式：4択

次のうち、「組織再編」について正しい説明として最も適切なものはどれか。

1. 合併・会社分割・株式交換などは組織再編行為に含まれる。
2. 表明保証は、売買契約やM&Aでは絶対に使われない。
3. ニューヨーク条約は、商標登録だけを定める国内法である。
4. 下請代金の支払遅延は、下請法上常に許される。

答え・解説

正答：合併・会社分割・株式交換などは組織再編行為に含まれる。

超簡単な解説：株主・債権者・従業員への影響を検討する。

要点：組織再編